

災害時のボランティア活動における心構え

災害時にボランティア活動が果たす役割は大きく、被災した方や被災地を支える大きな力となります。一方で、ボランティア活動が被災地の人々や、他の支援活動の負担や迷惑にならないよう、ボランティア一人ひとりが自分自身の行動と安全に責任を持つ必要があります。

1 災害ボランティア活動とは

ボランティア本人の自発的な意志と責任により被災地での活動に参加・行動することが基本です。現地へ行くか、行かないかを自分自身で判断しましょう。また、ご家族など周りの方々の理解を得ることも大切です。

2 事前の情報収集

被災地の情報を事前に収集することが大切です。現地の状況は刻々と変化していますので、必ず最新の状況を確認してください。

準備として、十分に現地関連情報の確認を行ってください。

長野県社会福祉協議会

<http://www.nsyakyo.or.jp/>

長野市社会福祉協議会

<https://www.csw-naganocity.or.jp/>

全国社会福祉協議会・全国ボランティア市民活動振興センター

<https://www.saigaivc.com/>

3 被災地での行動について

- ① 被災地での緊急連絡先を必ず確認する。併せて、地理や気候など周辺環境の把握も大事です。緊急の場合は、携帯電話でご家族等と連絡を取り合ってください。
- ② 無理はしない。自分にできる範囲の活動を行ってください。休憩を心がけましょう。無理な活動は思わぬ事故につながり、かえって被災地の人々の負担となります。
- ③ 被災した方々の気持ちやプライバシーを尊重しよう。マナーある行動・言葉づかい、自分からの自己紹介、身分証明証の携帯、写真撮影は控えることなどに心がけましょう。廃棄するものに見えても、家族にとっては大切な思い出のつまった物ばかりです。取扱いに十分配慮しましょう。
- ④ わからないことや困ったことは、各グループのリーダーに尋ねましょう。

ボランティアはあくまでも、“サポーター”であることを忘れないようにしましょう。